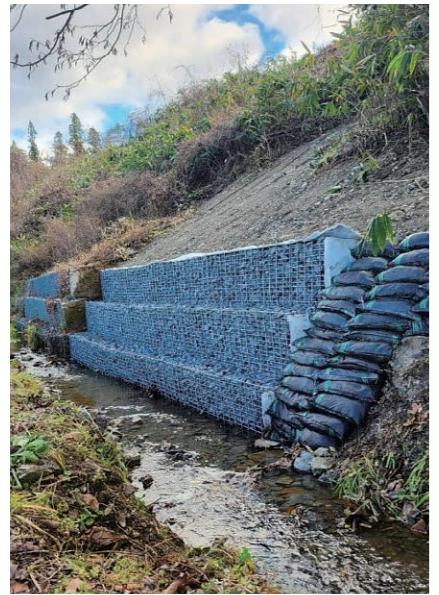


これまでいただいた地域要望の対応については、以下の通りです。



東和町小山田中川目地区豪雨災害復旧工事



東和町土沢地区消火栓移動工事



花巻南高校通学路凹凸補修工事



東和町コニセン前交差点横断歩道補修工事



東和町小山田外谷地地区豪雨災害復旧工事



花巻市諏訪町植樹帯剪定作業



花巻市下北方丁目歩道補修工事

プロフィール



高橋 修 たかはし おさむ

昭和45年2月9日生まれ（55歳）

●経歴：2003年から株式会社松屋敷代表取締役

2014年から花巻市議会議員

2016年から産後ケアリスト

2017年から防災士

2018年に岩手県立大学大学院入学（財政学・行政学を学ぶため）

2021年から日本思春期学会性教育認定講師

2021年から測量士補（自衛官の受験資格を得るため）

2022年から予備自衛官（災害派遣について学ぶため）

2023年に大型二種免許取得（地域公共交通の課題を把握するため）

2023年からバス運転士

2024年からタクシー運転手

2024年から重度訪問介護従事者（家族への支援について学ぶため）

2025年12月はじめに花巻市議会議員を辞職（3期）

●役職：総務常任委員会委員長・議会改革推進会議委員長・岩手中部広域行政組合議会副議長

●略歴：日本商工会議所青年部岩手県代表理事・花巻商工会議所青年部第27代会長・岩手県市町村議員連絡協議会副会長

●最終学歴：岩手県立大学大学院総合政策研究科修士課程修了

高橋おさむ後援会

TikTok 高橋おさむ

Twitter 高橋おさむ

Instagram 高橋修

facebook 高橋修

Youtube 高橋おさむ

●高橋おさむ土沢地区後援会 〒028-0114 花巻市東和町土沢8区438 Tel:0198-42-2734

●高橋おさむ小山田地区後援会 〒028-0106 花巻市東和町外谷地2区10 Tel:0198-42-2687

E-mail:osamu-hanamakicity@ezweb.ne.jp

市政をチェック&レポート!高橋修の市政報告書「おさむ通信」

2025.11

Vol.

05

おさむ通信

花巻市議会議員 たかはし おさむ

高橋 修

“情熱と行動力”

新たな視点で新たな花巻へ

平素は心温まるご指導とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

紅葉も進み、間もなく冬の季節を迎えますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。さて、この度「おさむ通信第5号」を発行させていただきました。

今回は私がこれまでに一般質問で取り上げた内容や、今後取り組みたい課題等を中心に掲載させていただきました。長文となりますが、最後までご一読いただければ幸いです。

お悩み相談 “政治カフェ”

広く市民の皆さんからご意見を伺うべく2018年からスタートさせた政治カフェも、今年で7年目を迎えました。毎月2回のペースで開催し、これまでに299名の方が足を運んでくださいました。いたいだいたご意見やご要望は市当局の担当部署へ繋ぐと共に、議会でも取り上げさせていただきながら、市政運営に反映させています。

開催日はSNSで告知、お子さん連れのママさんや、障がいをお持ちの方もいらっしゃいます。



花巻市の悪臭問題に終止符を

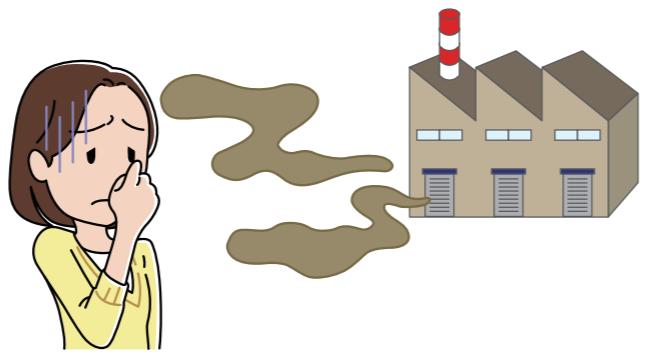
悪臭問題について

本市は花巻市矢沢学区を中心に広く悪臭が確認されている事業者に対し、花巻市悪臭公害防止条例第10条の規定を適用し、これまで9回にわたって改善勧告（行政指導）を行ってきました。この改善勧告は規制基準を超えて悪臭を発生させた場合、いち早く是正を促すために通知されるものであり、勧告を受けた事業者は、「直ちに事故の復旧に努めなければならない」とされています。つまり改善勧告が出された時点で、この事業者は花巻市悪臭公害防止条例第8条、「規制基準の遵守義務」に違反した状態のまま、50年以上の長きに渡り、未だに規制基準を大幅に上回る悪臭を発生させ続けています。

私はこの事業者が、今後も自発的に臭気対策を行うとは到底思えません。しかも、県が本年6月に公開した「いわて農業生産強化ビジョン」によると、県は令和10年度までに鶏の出荷量を更に2割増産する目標を掲げました。しかし、この計画には、化製場の悪臭対策については一切触れられておりません。つまり悪臭は、今後も更に酷くなるという事です。花巻市は岩手県の花巻支店ではありません。しかも花巻市内から持ち込まれる死亡牛等の畜産副産物は僅か0.8%、全体の

1%にも満たない数字です。

県の畜産振興と引き換えに、これ以上花巻市民の生活に犠牲を強いられる訳にはいきません。残り99%の持ち込み先については、私は県と受益者に悩んでいただきたい。花巻市悪臭公害防止条例第4条【市長の責務】には、「市長は市民の健康で快適な暮らしを守るために、必要な施策を講じて悪臭公害の防止に努めなければならない」と記されています。一般質問でも取り上げました。私はこの責務を履行し、再三の改善勧告に応じない事業者に対し、花巻市悪臭公害防止条例第11条を適用し、使用の制限又は禁止を命ずる改善命令に、直ちに踏み切るべきだと思います。



拡大するクマ被害への捕獲強化

クマ対策について

当市においてもクマの出没が相次いでいますが、本市は令和7年度、罠によって20頭のクマを捕獲し、今後も罠を追加購入しながら、更なる捕獲に努めていく方向です。また、必要に応じて市町村がハンターなどに発砲を命じる緊急銃猟を可能とする新たな対策も同時に進めており、ハンターを増やすため、狩猟免許の取得費用や、ガンロッカーと装弾ロッカーの購入費用についても補助制度を設けています。

クマ以外のシカやイノシシ対策も重要ですが、私が小さい頃はキツネやタヌキはもちろん。クマやシカは動物園でしか見られない希少動物のイメージがありました。一説には私の実家も昔そうでしたが、犬は放し飼いで、夜は家の周りを自由に走り回っていました。ところがその後、犬の放し飼いは

禁止され、室内犬も増えました。

このクマや獣害被害を防ぐ1つの手法として、東北では未だ岩手県だけが未導入ですが、訓練を受けた犬がベストを着用し、地域内を自由に走り回る「追い払い犬」の取り組みが実施されています。もちろん犬嫌いの方もいますので慎重な議論が求められます。県内のツキノワグマの頭数は確実に増え続け、警察官がライフル銃でクマを駆除できる新たな運用も始まりましたが、現段階では猟銃による止め刺しや、罠による捕獲に力を入れ、頭数を減らす努力を県内一丸となって実施すべき事が、当面の具体策ではないでしょうか。



孤立感の解消に向けて

産婦人科・小児科オンラインについて

私は周産期医療の充実、特に産褥期における産前・産後ケア事業に長年取り組んで来ました。男性という事もあり、最初は冷遇に近い状態が続きましたが、地元助産師さんの熱意と当局の理解もあり、本市は現在「NPO法人まんまるママいわて」さんに産前産後ケア事業を委託し、県内における草分け的な存在として、その重責を担っていただいている。最終的には宿泊機能を兼ね備えた産後ケアセンターの設置が私の最終目標ではありますが、受け入れ体制には限りがあり、全ての方が利用できる訳ではありません。

産後鬱を減らすには、私自身は性教育の遅れが根底にあると捉えておりますが、性教育を義務化するには、文科省の学習指導要領にある「はどめ規定」を見直す必要があり、自治体は手出しが出来ません。そこで家庭にいながらにして、気軽に産後鬱を緩和できる、「産婦人科・小児科オンライン」に私は注目しています。この相談サービスは、妊娠から出産、そして子育の悩みを現役の産科医師、助産師、小児科医が、オンラインを活用して直接対応してくれるサービスで、24時間体制で年中無休、夜間は最短15分で繋がる事が可能です。

県内では既に5市4町が導入し、自治体が会員になる事で、市民は無料となります。利用満足度は実に99.4%、特に注目

すべきは産後鬱の減少率です。

日本産婦人科医会によると、妊娠婦の死亡原因は分娩出血を上回り、鬱病による自杀が未だにトップ。しかも過去最多を更新しています。本市の重點施策の1つに、子ども・子育て応援プロ

ジェクトがありますが、その計画には、「妊娠婦や保護者が気軽に子育ての悩みや不安などを相談できる窓口機能について、ICTの活用や外部組織との連携を含めた機能の充実を図ります」と記されています。

私の中では、この気軽の2文字が最も重要、いつでも繋がれる安心感が最大の魅力です。更にこの事業は、こども家庭庁や厚生労働省、内閣府からも補助金交付を受ける事が可能です。私自身はソフト面の充実、先ずは孤立感の解消を図る事が、子育て支援の第一歩です。



農地利用の将来像づくりの必要性

中山間地域のあり方

私は中山間農家ですが、空き家が増える度に、せき払いや草刈り作業の範囲は拡大し、加えて市道の草刈り作業も年々大きな負担となっている事から、今では組合を抜ける者や、組合自体が解散してしまった地域もあります。電気や水道はどんなに空き家が増えても開通した状態ですが、農業用水はそうはいきません。例え血縁関係がない農地でも、年に数回せき払いや刈り払い作業を実施しなければ、水は自分達の足元まで流れて来てくれません。基盤整備を行い、耕作しやすい農地を確保していく事にはもちろん賛成ですが、農地中間管理機構は、条件の良い農地は農地集約を行いますが、中山間地域は手付かずです。

人は山際から順番に亡くなる訳ではありません。空き家が増える度に、耕作放棄地はバラバラに残されていきます。中山間地域も農地利用権を交換し、山際から自然に返していく集約作業を実施しなければ、残されていく組合員は疲弊し、最終的には組合自体が解散という道をたどる事となります。やはり次期7期計画の段階から、私は農業委員会主導の元で、将来の農地利用のあるべき姿を明確化する事が、最も重要な扱い手対策な気がします。そもそも令和元年に農林水産省が策定した「人・農地プラン」は、5年～10年後の実質化に向けて、地域計画をその都度見直す計画だったはずです。

農業委員会は農地を非農地とする適用外証明の発行手順

について、地域計画の見直し時期に合わせ、丁寧に説明を実施すべきです。しかも農地は適用外となる限り、改良区に賦課金の支払いが生じます。しかしその一方で、農業の発展に土地改良区の存続は欠かせません。「農地が減れば、改良



区は収入が減って困るのでは?」という声を良く耳にしますが、国は適用外農地が増えた場合、**その差額分を改良区に補てんする仕組み**となっています。この一連の流れを中山間地域に周知させる事が、私の中では担い手対策の第一歩、第2次花巻市まちづくり総合計画の後期アクションプランに、最優先で追記していただきたい策定案の1つです。ただその一方で、単に農地を減らすだけでは、本市の基幹産業は衰退してしまいます。

中山間地域からも収益が得られるよう、今後もスマート農業の推進に加え、**本市における新たな特産品の開発**も、私の中では重要な視点です。北上市の「ふたごさといも」しかし、滝沢市の「滝沢スイカ」しかしです。本市は、花巻・北上・遠野・釜石・大槌・西和賀町の広大な範囲を営業区とする、「JAいわて花巻」さんの本店所在地です。しかも県内7組合の内、組合施設内に市農林部が同居している自治体は、**県内で唯一花巻市だけ**です。この強みを生かし、集落営農ビジョンの実践に向け、本市も食と農を基軸とし、共に歩んでいくべきではないでしょうか。

市民の声に寄り添う公共交通

地域公共交通について

本市の地域公共交通は慢性的なバス運転士不足に陥り、高齢化も進む中、スクールバスの運行にも支障をきたすようになりました。これはタクシー事業者も同様で、運転手不足は通院や買い物にまで支障をきたしています。この深刻な状況を一般質問でも取り上げさせていただきました。しかし、一向に進展が得られず、更に関係者からは、「質問内容が的外れ」とのご指摘をいただきました。当局も私も現場を知りません。やはり現場を知らない者同士で議論を交わしているようです、**課題の本質にはたどり着けない**と思います。そこで私は、大型バスとタクシーの両方を運転できる大型二種免許を取得しました。市内のバス会社に身を寄せ、約1年間スクールバスや貸切りバスを経験させていただきました。その後、昨年からは更に市内のタクシー会社に身を寄せ、活動の趣旨をご理解いただき、現在にいたっています。

これまでの約2年間、バスとタクシーの両方を比較させていただきました。その結果、私は市内の循環型バスを除き、行政経営による市内外円のバス路線の介入には、慎重を期す



べきものと考えます。バス停まで歩ける高齢者は極わずか、「立っているだけでも辛い」という言葉を良く耳にします。

実際に本市の**地域公共交通の満足度**は下がり続けています。しかも皮肉な事に、バス路線は距離が遠い地域から利用者が減少し、花巻市の外円から撤退していきます。大型バス

は購入費だけでも1台数千万円、年間の赤字額も4,000万近くに達しています。県交通から花巻市が路線を引き継いでも、利用者が増える訳ではありません。そもそも赤字だから撤退しているのです。

公共ライドシェアの導入も1つの選択肢ですが、この赤字の4,000万をもし同額として生かすなら、私は旧3町と市の外円地域を中心に、**地元のタクシー事業者に補助金**を出し、高齢者や障がいの方々を玄関先まで送迎した方が、満足度は確実に上がる事と思います。特に障がいをお持ちの方は、車体や開放したドアを手すり変わりに乗車するため、車両を玄関先ギリギリまで横付けする事が求められます。これは乗降者場所を自宅付近までと定めている現在のデマンド型交通では、対応は不可能です。行政サービスは赤字・黒字で判

断されるべきものではありませんが、満足度が上がらなければ話は別です。

高齢者や障がいをお持ちの方は、なぜバスではなく利用料金の高いタクシーをわざわざ利用するのか。それはひとえに、**バスはバス停にしか止まらない**からです。バス停が目の前だったら、私だって乗ります。でもバス停が遠く離れていたら、両手が荷物でふさがっていたら、杖を付くようになったら、ましてや障がいを持っていたら、お金の問題ではなく、私も最終的にタクシーを利用します。バス路線を維持する事で、本当に市民の満足度を得られているのか。いずれバス路線を維持しても、今後も大方の利用者が高齢者中心である事に、何ら変わりはないのです。

地理的弱点を踏まえた災害対応

新たな防災力の必要性について

本市は重点戦略の1つに防災力の強化を掲げていますが、令和2年に策定された花巻市国土強靭化地域計画には、「人命の保護、救助、救急、医療活動が迅速に行われる事」が、事前に備えるべき目標として記されています。しかし、本市の脆弱性評価を見ると、人命の保護に関する対策は耐震化の促進や施設の老朽化対策など、どれも事前の備えばかりが重視されており、肝心の救急医療体制については、脆弱性が一切評価されておりません。

これは本市に限らず、震災で大きな痛手をこうむっていない自治体の特徴でもありますが、**消防設備、消防団だけが無傷**である事を前提とした防災計画は、单なる理想像にしか過ぎません。これまでの激甚災害で、消防機能だけが盤石だった事が、**過去に1例**でもあったでしょうか。災害規模が大きいほど、消防力への過信は逆に弱点となって毎回浮き彫りとなり、その後計画が大幅に改善されています。

過去の震災に習い、消防力が幹線道路の寸断と共に低下していく事を、特に森林面積が広く、橋梁数が1,000箇所を超える当市のような自治体は、**地理的弱点をしっかりと評価**すべきです。私は消防団に入って昨年で30年の節目を迎え、今年から機能別団員となりましたが、外部からの災害派遣について学ぶため、技能公募で予備自衛官となりました。

昨年は市ヶ谷駐屯地の災害訓練にも参加しましたが、自



今年参加した滝沢駐屯地での災害訓練の様子

衛隊による災害派遣は、決して「最後の切り札」ではありません。むしろ災害規模が大きいほど、いかに外部からの防災力をいち早く投入できるのかが、首長判断として求められるべきです。

特に本市最大の強みである空港を生かした災害派遣の集結は、空港所在地として、**これに勝る後ろ盾**は他にありません。花巻市地域防災計画によると、「市は単独で防災訓練を実施する事が出来る」とされており、本市も宮城県の栗原市に習い、自衛隊と連携した防災訓練の実施に向け、検討を進めるべきではないでしょうか。

羽田便就航がもたらす波及効果

いわて花巻空港について

本市は県内唯一の空港所在地ですが、私は兼ねてから空港を要する自治体として、その自負と誇り。そして何より、空港と共に歩んでいくという成長意欲が、未だに市の姿勢からは感じ取れていません。FIで言えば、空港所在地としての圧倒的な優位性、ポールポジションを、本市は本当に生かし切れているか、現状維持に甘んじていないか、その手腕こそが、私は花巻市民から最も問われているように感じます。私の中でその最たるもの。起死回生の一手として大いに血が騒ぐのが、羽田便の航路開拓です。青森、秋田、そして距離的に近い山形ですら羽田便がある中、なぜ岩手だけ羽田便がないのか。青森空港や秋田空港もそうですが、旅行添乗員は羽田便を軸に観光プランを作成します。

お隣の北上市さんもそうですが、私自身バスを運行していて特に惨めに感じた事は、北上市は仙台空港より秋田空港の方が距離的に近いため、羽田便を利用するため、花巻空港を横目に、わざわざ秋田空港を利用する事です。花巻空港に羽田便さえあれば、青森空港まで観光客を受け取りに行く必要もありません。青森空港から二戸市の観光地までは、高速を使っても休憩なしで約2時間、更に二戸市～花巻市内の温泉施設までプラス1時間半、片道の移動時間だけで、合計3時間半もかかります。

この3時間半の移動時間を観光関係者は有意義な時間帯と捉えるのか。それとも大きなマイナス要因として重く受け止めるのか。少なくともこの3時間半の移動時間があれば、花巻空港を起点とした交通アクセスはいかんなく発揮され、空港ICを主軸に、盛岡市はもちろんのこと、県南や三陸道も含めた広域周遊は容易に可能となり、花巻市内でランチを取る事も、夕方前にホテルにチェックインする事も十分可能となります。私の中で「交通アクセスの良さ」という表現は、高速道路と空港が最短距離で繋がって、初めて大きな利点と言えるものです。

青森空港や秋田空港から高速を数時間かけて移動する現在の状況は、逆に本市における観光戦略の最大の弱点として、重く受け止めるべきではないでしょうか。国道交通省は2年に1度、「羽田発着枠政策コンテスト」を実施していますが、今年度は山形県と青森県がそれぞれ羽田便の発着枠を4年



間確保しました。羽田便の就航は花巻市のみならず、県内全ての自治体の観光戦略を根底から覆す大きな起爆剤となり、花巻市は名実共に、空の玄関口と陸の玄関口、その両方を同時に手に入れる事ができます。

この羽田便の必要性を主張すると、毎回必ず新幹線との兼ね合いを引き合いに出す方がいらっしゃいますが、その比較基準はもう既に時代遅れ。もう15年以上も前の話です。現在の羽田空港は国内線のみを扱う空港ではありません。なぜ、北上市民は新幹線を利用せず、わざわざ秋田空港を利用するのか。それはひとえに、秋田空港に羽田便があり、その間に国際線があるからです。アクセスの良さと利便性の高さは、東京止まりの新幹線とは比較になりません。新花巻駅→東京間をライバル視する時代は、もう終わったのです。

それともう1つ。私が羽便の就航に拘るもう1つの理由に、県が全庁を挙げて取り組みを推進している「ILCプロジェクト」の存在があります。ILCの誘致が実現すれば、建設・運用期間中の経済効果はゆうに3兆円を超え、世界から研究者とその家族が県内に集結します。その際、肝心の花巻空港に羽田便がなければ、逆にアクセスの悪さを世界中にはらまくようなものです。

国際交流もそうですが、花巻市民憲章にはこうあります。
「1. ひとつふるさとを愛し、世界への眼をひらきます」その第一歩こそが、私の中では羽田便の航路開拓なのです。



地元企業を優先した入札手法

入札手法について

現在、本市の入札手法は市外業者も指名対象としていますが、これまでの収入減を突如失った地元企業は、他市に営業をかけ、必死に食い繋いでいます。つまり花巻の市内業者が、今度は他市でよそ者扱い。市外業者になっているという事です。既に拠点を沿岸に移した事業者、若しくはこれから移す事を前提としている事業者もあり、この流れを自治体の力でコントロールする事は不可能です。

落札額が安ければ財源を他に回せる。歳出を抑えられるという捉え方もあると思いますが、ただその一方で、地元企業の地方税を初めとする多額の納税額が、本市の一般財源の

歳入に、中心的な役割を果たしている事も、また事実です。やはり地元企業は市外での下請けではなく、元請けとして、市内で安定経営を図れる事が、本来の地域経済のあるべき理想的の姿であり、地元企業と自治体が同じ方向を向く事が、納税者としても本意ではないでしょうか。

私は入札の手引きに沿って、地域経済活性化のため、入札手法は地元企業を優先とする入札手法に改めるべきだと思います。

知識よりも寄り添う福祉を

福祉の充実について

第2次花巻市まちづくり総合計画には、高齢者や障がい者福祉の推進が細部にわたって記されています。しかし、私自身タクシー運転手をしながら感じる事は、高齢者や障がいの方々は、知識は求めていません。逆に知識で被せようすると、先生と生徒の様な感覚になり、会話も弾まなくなります。相手の気持ちに寄り添い、とにかく共感する事が最も大切な気がします。

私は昨年、重度訪問介護従事者の資格を取得しましたが、喀痰吸引1つとっても、「鼻の穴の数だけやり方が違う」と指摘されました。医療行為はやはり緊張を強いられます。高齢者の数だけ介護程度は異なり、障がい者の数だけ症状や医療行為は細部に渡ります。私はこれらに優先順位を付ける事は出来ません。また、当事者と同じように、それを支える家族へのサポートも極めて重要だと感じています。

ただ1つ言える事は、障がいをお持ちの方やその家族の方々と接していると、自分もその輪の中に加わりたいと思うようになります。心を開いてくれるとやっぱり嬉しいものです。その感覚を地域やそれを支える行政側が共有できたら、本当に素晴らしい社会だろうなあ…と思います。

私の中で福祉社会の根幹をなし、更なる充実強化を図りたいものが、地域密着型サービス、訪問看護、地域包括ケア

システムの3つです。

その窓口となり、私が全幅の信頼を寄せるのが、花巻市にも数名配置されている、福祉・介護・医療の知識を兼ね備えた社会福祉士(ソーシャルワーカー)の存在です。このエキスペリエンスの方々が出してきた予算案に、私は異を唱える事は出来ません。

障がいをもつ者ともたない者が平等に生活できる社会、ノーマライゼーションの実現に向け、私自身も共に歩んでいけたらと考えています。



教育行政に求められる幅広い視点

教育環境について

教育は福祉関係と同様に専門性が高く、私自身はこれまでも教育長演述方針に全幅の信頼を寄せてきました。ただ教育には、子育て環境や学校教育の充実だけではなく、生涯学習の推進に加え、スポーツや芸術文化の振興など、範囲は多岐に渡ります。私の中でフリースクールやこども食堂、ヤングケアラーの支援は欠かせませんが、本市には神楽や鹿踊りを初め、多様な郷土芸能が数多く点在し、これらの保存や遠征等の支援、これまで私が毎月開催してきた政治力フェスでは、個人競技やスポ少の県大会、全国大会への遠征支援の補助が繰り返し求められてきました。

地域限定保育士の新たな取り組みや、国際交流もその1つですが、私が教育行政の方向性として感じる事は、教育施設

の統合や、民間委託（文化振興事業団）への移行を視野に、財政負担を極力減らす努力と、子ども達への未来の投資を同時に使う事ではないかと考えています。



南城地区に新駅を

南城地域の整備について

現在本市においては、地域経済の活性化と雇用拡大を図るため、南城地区に花南産業団地の整備を進めています。スマートICの設置により、高速道路までは約2キロの立地ですが、私は南城地域の全てを工業化する事には慎重です。

国土利用計画花巻市計画によると、本市は計画より世帯数が約4,000世帯も超過しています。この数字はほぼアパートによる部屋数ですが、アパート一棟では、歳入は固定資産税の一棟分だけ。これが部屋数の分だけ宅地化が進めば、新

たな一戸建ての分だけ、新たな自主財源の確保が期待できます。ましてや花巻市は、現在住民税等が徴収されない非課税世帯が既に全体の約25%を占めており、今後は新たな財源確保のため、課税世帯の超過にも着手せねばなりません。このアパートに留まっているとされる約4,000世帯という数字は、実に東和町の全世帯数を大幅に上回る数字です。つまり本市は、東和町に匹敵する新たな町が1個誕生するほどの大きな可能性を秘めているのです。

私は当市に第二、第三の星が丘、桜台に次ぐ、新たな住宅街の必要性を強く望んでいます。宅地開発が進めば、地元企業も潤います。そのためには、家主にとって魅力的な商業施設や、更なる交通アクセスの利便性が求められます。南城地区は隣接する北上工業団地の影響で人口が増え続け、下根子には富士大学も存在しています。富士大学との産学官連携は、まだまだ未開拓のままであります。高校生議会でも意見が出ました。「花巻市には1日過ごせる場所がない」、全くその通りだと思います。若者の流出を防ぐため、私は諏訪町や不動町一円も開発視野に、大型ショッピングセンターの誘致に加え、東北本線沿いに新たな新駅を建設できないものかと考えて



※イメージ写真

います。夢物語かもしれません、平成10年に開業した紫波中央駅は、市民の思いと熱意によって誕生した請願駅です。当時の記録によると建設費は約6億円前後、駅の建設費は公費負担に上限があるため、不足分は寄付によって賄われ、約2億7,000万円が集まり、実現にいたりました。今や寄付行為は様々な手法があり、私はネーミングライツもその1つだと考えています。ハードルが高い事業だからこそ、行政以外に悩

んでくれる組織は他にありません。

それともう1つ。南城開発にはもう1つの大きな可能性があります。通関機能を兼ね備えた内陸貿易港（インランドデポ）の誘致です。花南産業団地は花巻JCTから釜石方面へと容易にアクセスが可能です。釜石港には平成29年に大型のガントリークレーンが新たに配備されましたが、釜石市は地形的に平地が少なく、外国船からのコンテナを一時的に保管し、貨物の品名などを税関に申告するための大型スペースの土地確保が難しく、これまで他市にその活路を見出していました。私も当時花巻市内で開催された釜石市主催のインランドデポ説明会に参加し、その後も釜石市港湾課に直接お邪魔して実現の可能性を模索してきました。インランドデポが実現すれば、新たな雇用の創出が期待でき、更なる関連企業の呼び水ともなります。

南城地区における大型ショッピングセンターの誘致と、新たな宅地開発、そしてインランドデポの誘致に、新駅の存在は欠かせません。私は羽田便の新規就航と合わせ、今後も新駅建設の可能性に全身全霊を傾けていきます。



まとめ

市政課題について

私は故郷に住み続け、市議会議員として現在3期目を迎え、これまで市当局の皆さんと共に、1つ屋根の下で市政の動向を目の当たりにしてきた当事者の1人です。今さら大まかで抽象的な政策を掲げる段階はとうの昔に過ぎています。私が今後の取り組みとして掲げる事は、その政策を実現するための、具体的な施策の段階となります。旧新興製作所跡地の瓦礫問題もその1つですが、私は県から花巻市を見るのではなく、花巻市から県と向き合っていきたい。特に悪臭問題については、一步も引きません。

私は今後、広域的なインフラ整備や広域防災、そして羽田便を主軸とした新たな観光戦略など、近隣自治体との緊密な連携が最も重要になるだろうと考えています。これからの花巻市は、花巻市まちづくり基本条例の基本原則に立ち返り、政党や県の動向に左右されない、市民主体の新たな自治推進に舵を切るべきだと思います。

私自身はまだ浅学で弱点だらけ。議場でモジモジする事も多い事と思います。しかし、分からない事は、私だったら

分かる方に素直に頼ります。専門性の高い優れた担当職員に囲まれていれば、市政運営に支障はないはずです。

本市は来年1月に花巻市長選挙が予定されておりますが、私はどの選挙も、各候補者の学歴や経験、ましてや出足の速さ遅さが重要視されるべきではないと考えています。比較すべきは、各候補者が一体何に熱意を持って難題と向き合い、我々の故郷を更により良い方向へと導いてくれるのかが、市民の皆さんにとって、最も重要視されるべき判断材料である事を願います。

〈最後に〉

私にも大切な家族がいます。私に対する誹謗中傷は、家族ではなく、私自身に向けてくださいますよう、重ねてお願いいたします。